



／ 3月13日から ／

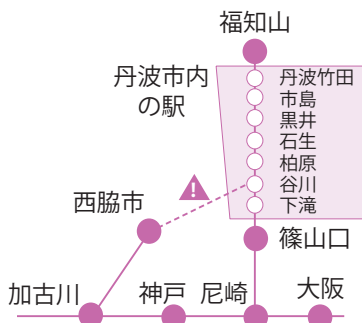


福知山線市内全駅でICOCAが利用できます！

【ICOCAエリアが拡大します】

3月13日（土）から、JR福知山線全駅で交通系ICカード乗車券ICOCAが利用できるようになります。大阪・神戸方面への鉄道を使ったお出かけがスムーズになるほか、毎日の通勤・通学の定期券もICOCAに搭載することが可能です。

◆ ICOCA が利用できる主な区間



※西脇市～谷川間をICOCAで乗車することはできません。
 ※現在、ICOCAは谷川駅のみ販売ですが、3月13日からは黒井駅・柏原駅でも購入できます。

【「たんばICOCAエリア拡大記念イベント」を開催】

■とき / 3月13日（土）午後2時～4時

■ところ / JA丹波ひかみ柏原支店 駐車場内

※会場に駐車場がないため、公共交通機関を利用ください。

■内容 / ICOCAに関する展示や、鉄道ファンのタレント斉藤雪乃さんをゲストに迎えたトークショーなど。トークショーは2回実施予定（1回目：午後2時30分～、2回目：午後3時15分～）会場で、斉藤雪乃さんからのメッセージが印刷されたカードをプレゼントします※数量限定。なお、トークショーは撮影禁止です。新型コロナウイルス感染症の対応のため、イベント内容を変更または中止する場合があります。来場時には必ずマスクを着用してください。

☎未来創造課（本庁舎内） ☎ 88 - 5360

私は、市議会議員時代の昨年4月頃から、丹波市の新型コロナ対策として様々な支援事業を行うよりも、全市民に対して一定額を給付することが最も効果的な施策であると考え、議会で主張してきました。コロナ禍において市民1人ひとりが置かれている状況は異なり、必要とする支援も異なります。しかしそれら全ての声に個別に対応することは難しいため、全市民に一律給付することで、それぞれが必要とすることに役立ててもらいたいと思います。選挙公約の一つとして、全市民に1人5万円還元を掲げました。

そして、その財源は国からの地方創生臨時交付金のうち約10億円の活用と、庁舎建設準備基金約22億円の取り崩しを唱えてまいりました。

市長就任後、将来の財政運営を考慮した施策を検討する中

「市民に寄り添う支援」
を一緒に考えていく

市長・林時彦
時を駆ける



で、庁舎整備基金については、現庁舎の維持補修や多数の公共施設の長寿命化対策などに必要であること、さらには新型コロナウイルスの感染が再び拡大し、収束の気配が見えない中、自然災害にも備えていかなければならないことなど様々な課題に対応するために、現時点では取り崩すべきでないと判断しました。

そのため、国からの地方創生臨時交付金約10億円などを活用し、将来への負担なく多様な使い道がある「つかエール・ささエール商品券」として全市民に一律2万円をお届けする施策を議会に提案しました。

残念ながら議会の議決は得られませんでした。行政・議会ともに「市民に寄り添う支援」をしたいという思いは同じです。今後も国や県の動向を注視しながら、適切な時期に必要な施策を行っていききたいと思います。

丹波市長 林 時彦